



仙波糖化工業株式会社

証券コード：2916

個人投資家様向け会社説明会資料

2020年12月5日

目次

I	会社概要	P 2
II	成長戦略	P13
III	2021/3期業績予想	P23
IV	株主還元	P27
	参考資料	P30

I . 会社概要

プロフィール

商 号	仙波糖化工業株式会社
創 業	昭和21年10月4日
代 表 者	代表取締役社長 小林 光夫
本 社	栃木県真岡市並木町2丁目1番地10
資 本 金	15億 50万円 (2020年3月末)
売 上 高	207億42百万円 (2020年3月期)
従 業 員 数	586名 (連結) (2020年3月末)
発行済株式数	11,400 (千株)
主な事業内容	カaramel製品・乾燥製品・冷凍製品・組立製品

食品の「色・味・香・旨」を演出する食品素材メーカー

こんなところに

- カスタードプリン、
炭酸飲料・コーヒー牛乳 にも…



- インスタントラーメン にも…



- 粉末茶 にも…



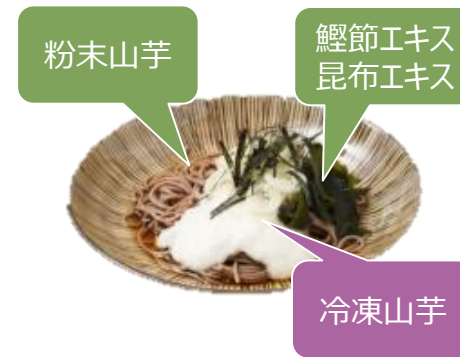
- インスタントコーンスープ にも…

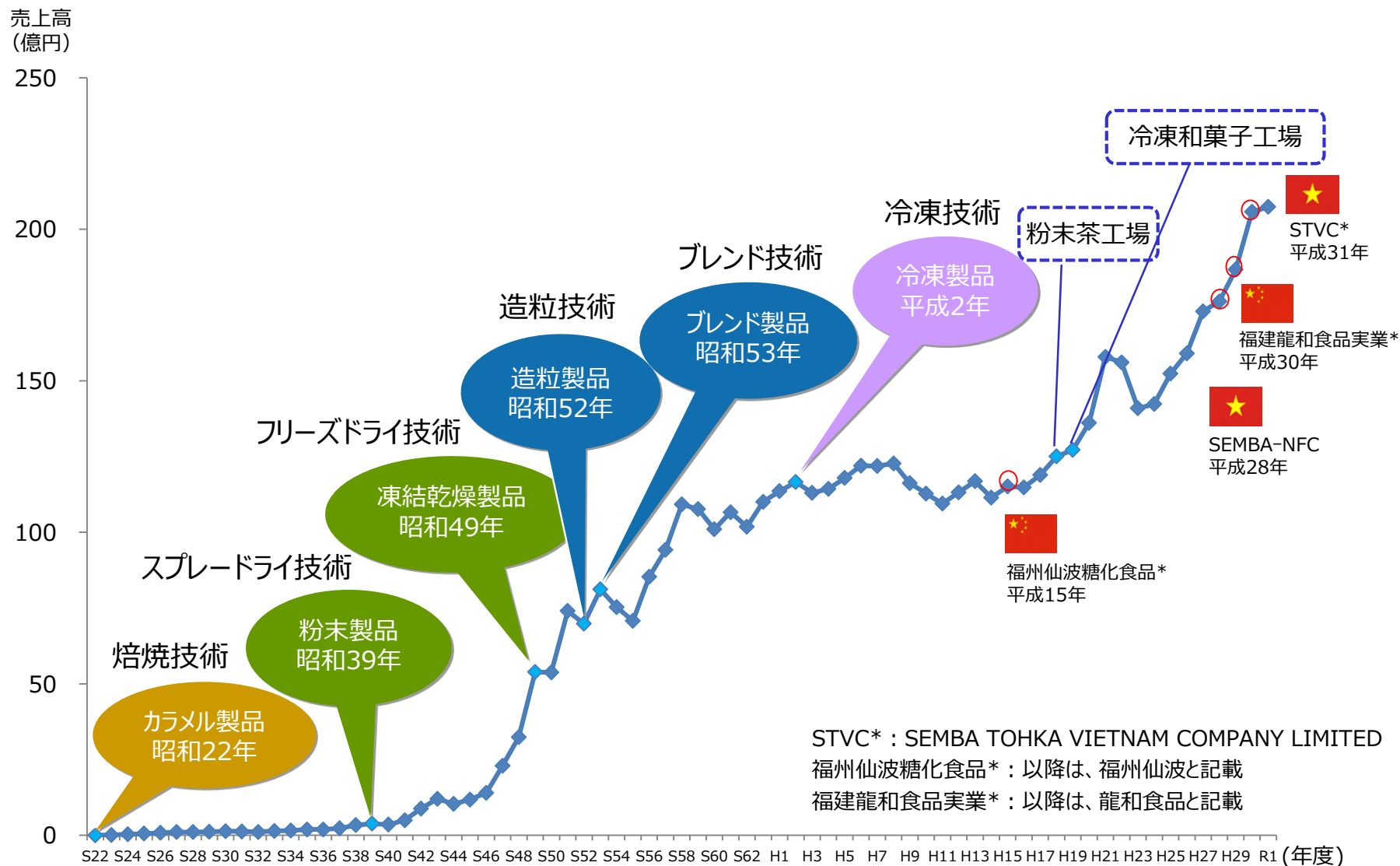


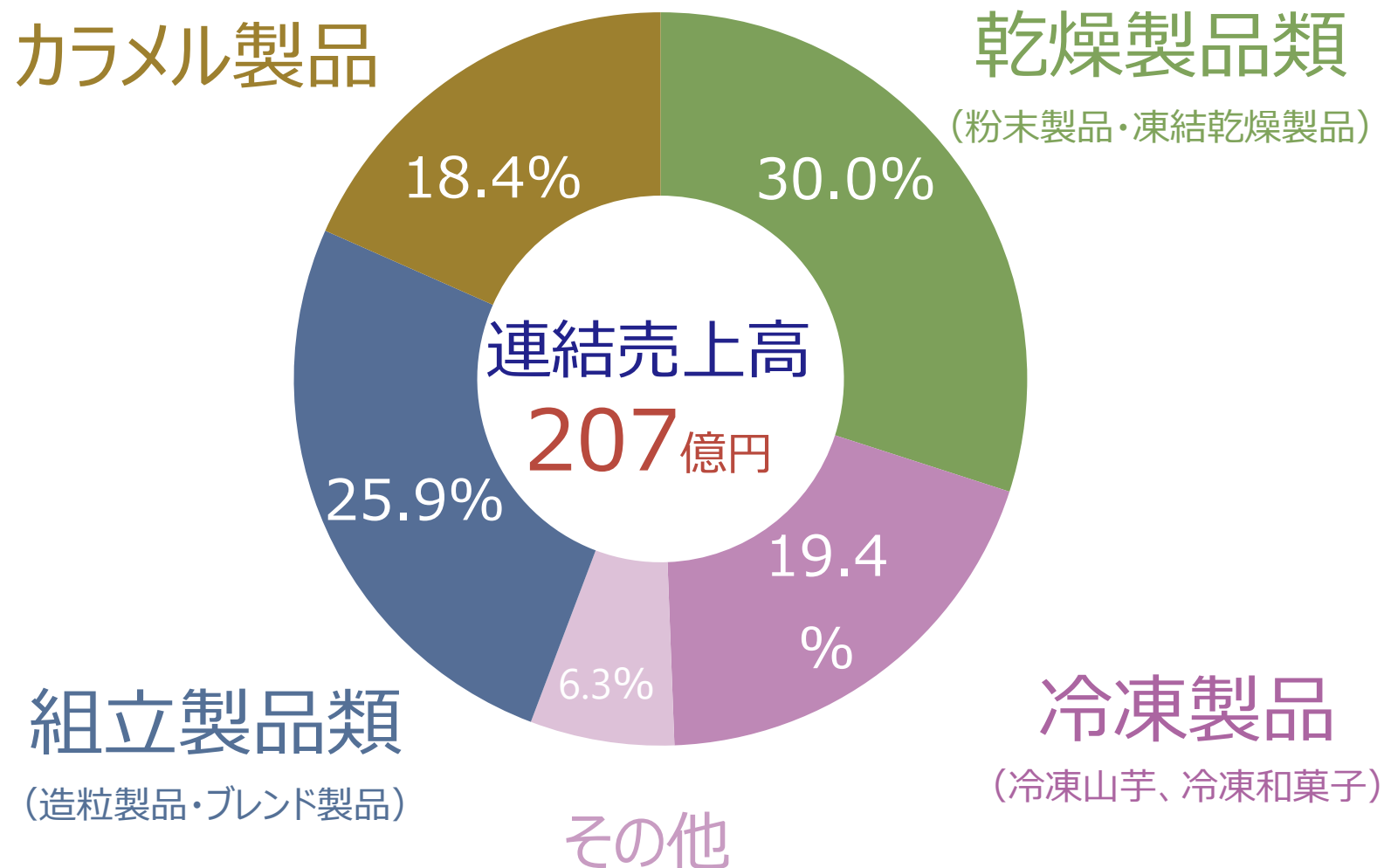
- 即席味噌汁 にも…



- とろろそば にも…



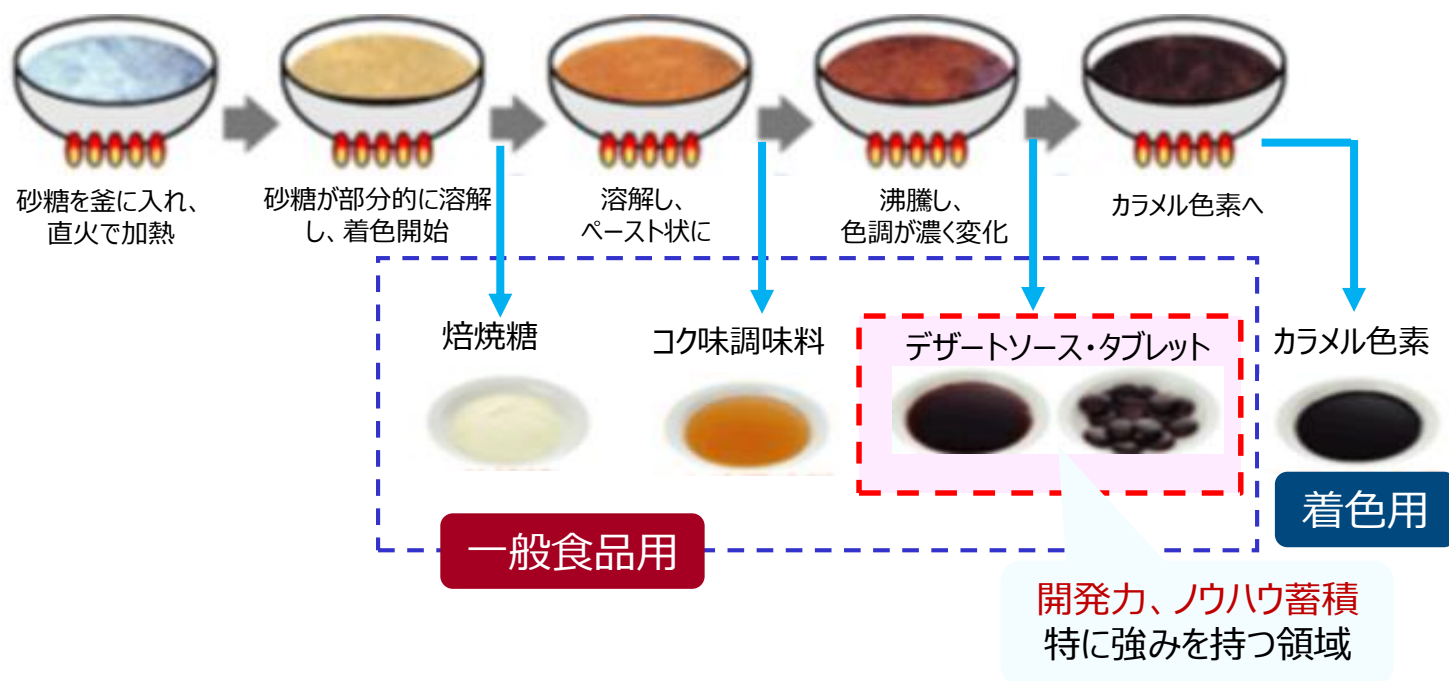




- 創業商材。国内シェア**トップ**
- 焙焼技術で着色用と一般食品用を作り分け。
- 高付加価値のデザート向け新製品開発に注力。

焙焼技術とは

糖を独自のノウハウで加熱し、多用途な製品を作り分ける。
カaramel製品は用途に応じて液状製品と固形製品に大別される。



着色用

清涼飲料やアルコール飲料、ソース、カレーなど

一般食品用

プリン、アイスクリーム、ケーキ、バウムクーヘンなど

一般食品向け製品例

カaramelソース
(ボトル品)



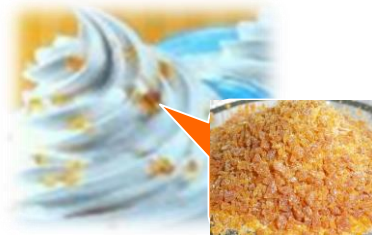
カaramelソース
(タブレット)



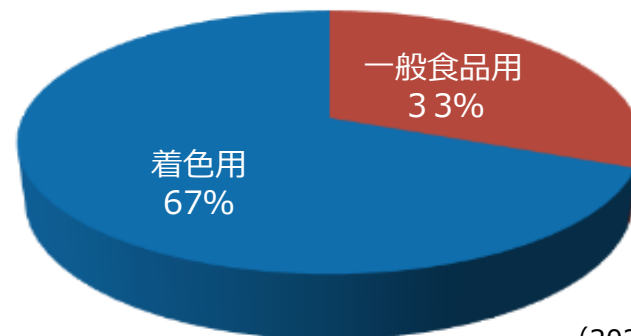
カaramelソース
(顆粒品)



キャンディー・チップ



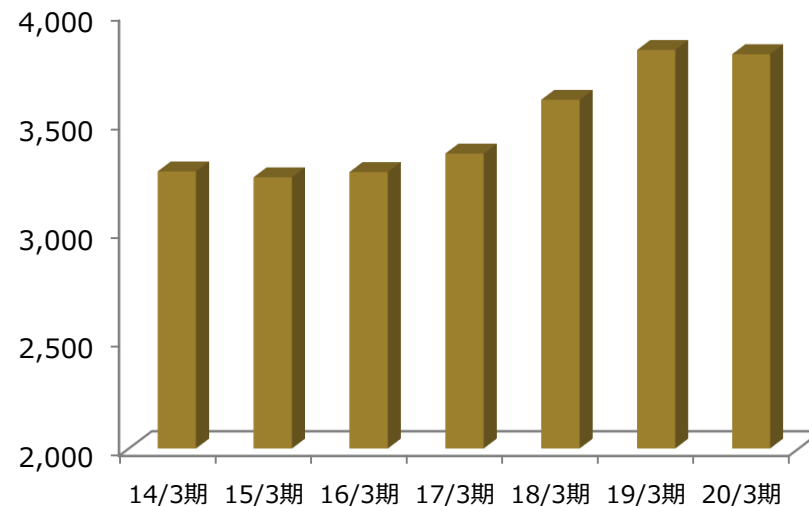
用途別カaramel製品売上構成



(2020/3期)

(百万円)

カaramel製品売上高推移



- 売上高の約**80%**は B to B、粉末製品と凍結乾燥製品を手掛ける。
- 粉末製品は、粉末茶や粉末調味料（味噌や醤油）などを販売。
- 凍結乾燥製品は、野菜ブロックや粉末山芋が主力。

当社の主力製造技術

粉末製品

スプレードライ(SD)技術

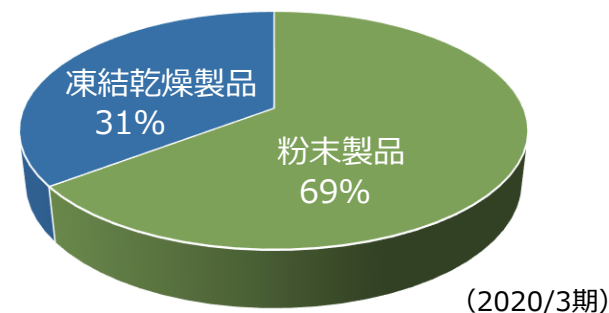
液化化した原料を霧状にし、加熱空気ですべて瞬間的に粉末化する乾燥技術。乾燥工程が短く、大量生産に威力を発揮し、高品質で、低コストな製品の安定供給が可能。

凍結乾燥製品

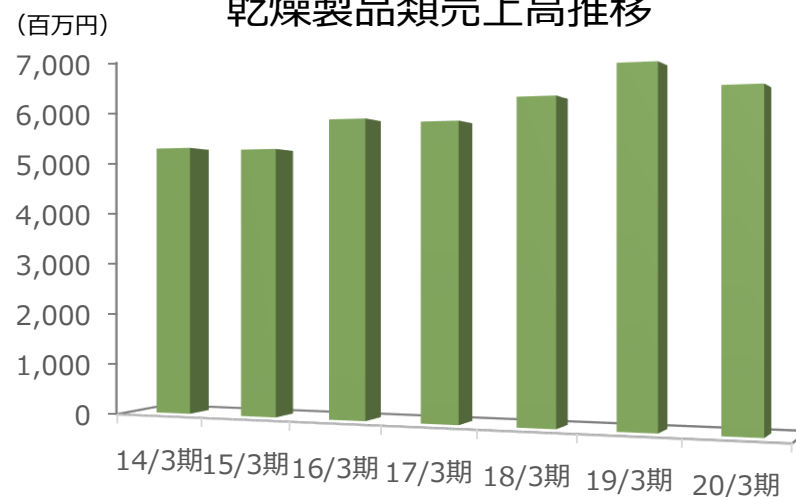
フリーズドライ(FD)技術

凍結させた原料を真空状態のもと、低温で乾燥させる技術。素材の色、味、香り、栄養をそこなく乾燥することが可能。保存性や簡便性に加えて、機能性が高い乾燥方法。

乾燥製品類売上構成



乾燥製品類売上高推移



主な乾燥製品の紹介

国内市場向け

粉末製品例



凍結乾燥製品例



粉末山芋

聖シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



【紅茶】



稀シリーズ【煎茶】【ほうじ茶】



【玄米茶】



【麦茶】



海外市場向け

粉末製品例

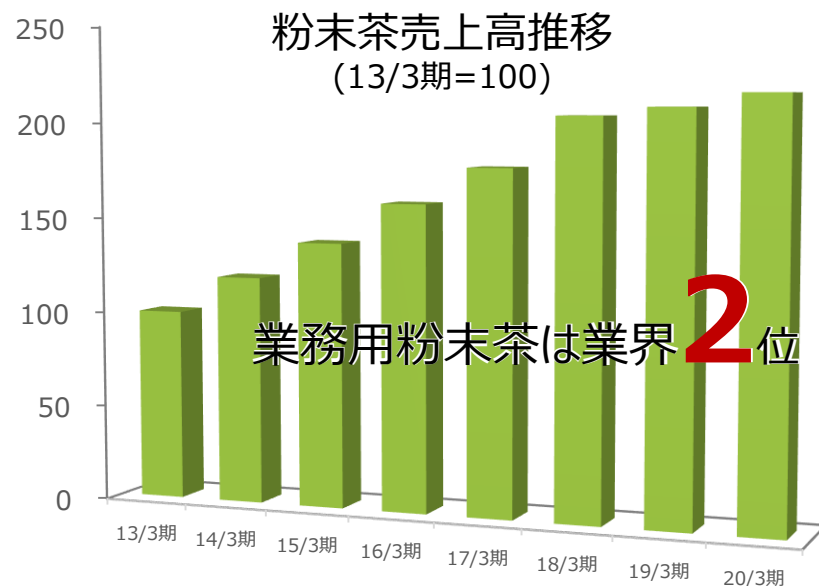


抹茶ラテ

凍結乾燥製品例

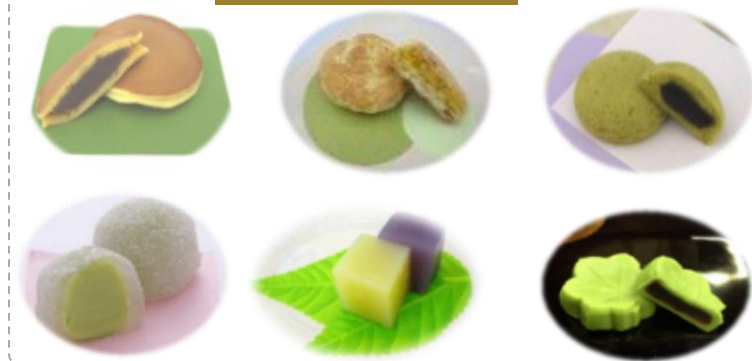


野菜ブロック



- 冷凍和菓子はメディア市場向け中心に、約**50**種類を販売。
- 冷凍山芋は業務用・CVS向け中心。取扱量は業界 **2** 位。
- 中国子会社は主に冷凍デザート製品を手掛ける。

冷凍和菓子



その他(海外)



【タピオカ】

【ライチゼリー】

冷凍山芋



(百万円)

4,000

3,000

2,000

1,000

0

冷凍製品売上高推移

その他

冷凍山芋

冷凍和菓子

14/3期 15/3期 16/3期 17/3期 18/3期 19/3期 20/3期

- 造粒製品とブレンド製品とも受託加工が中心。
- 溶け易くなどのキーワードで提案営業を強化。
- 現在は、健康食品関連製品の受託が牽引。

造粒とは

粉末食品の「溶けにくい」、「流動性が悪い」、「吸湿性が強い」等を改善し、より使い易い最終商品へ仕上げる。

造粒製品

スープ類、健康食品、スポーツ飲料、ココア等



ブレンドとは

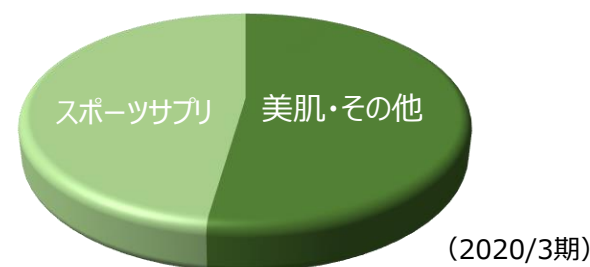
各種原料を混合し、原料の持ち味を活かした粉末状調味料やインスタント食品などを製造する。

ブレンド製品

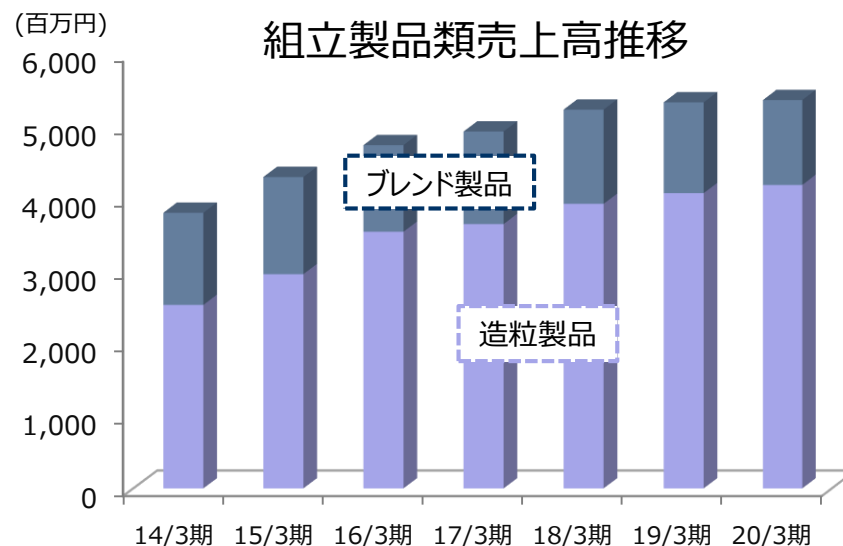
小麦粉ミックス、唐揚げ粉、みそ汁、粉末エキス等



健康食品の売上構成

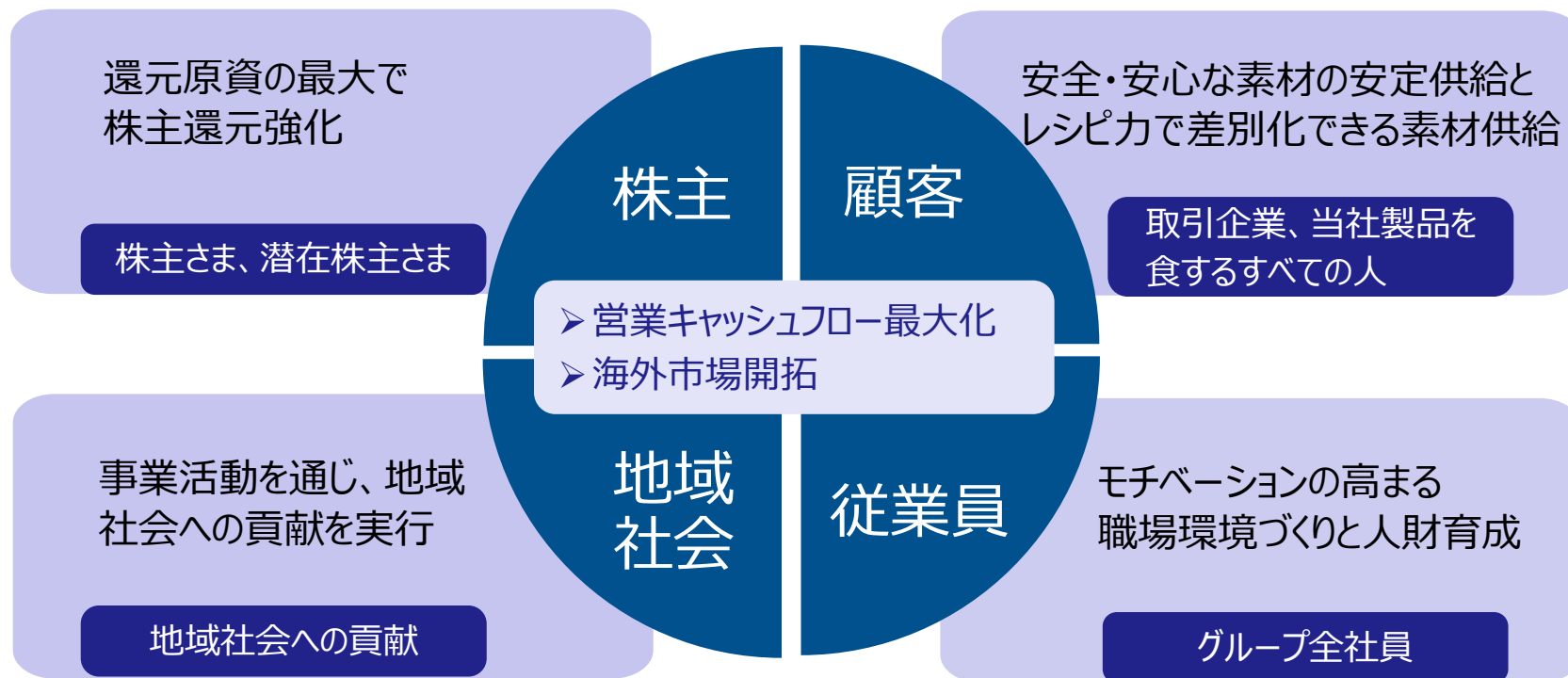


組立製品類売上高推移



Ⅱ．成長戦略

100年企業に向けた強固な基盤を構築



より良いものを作り、顧客信頼度を向上させ、
収益を伸ばすことで株主様、従業員、地域社会への還元を増やす

基本戦略

グループ経営力強化

- ◆ 海外子会社管理強化
- ◆ 個別経営からの脱却

自社商材拡販

- ◆ 開発強化
- ◆ 提案営業強化

海外市場開拓

- ◆ 中国市場対応
- ◆ 東南アジア市場対応

営業キャッシュフローの最大化を目指す

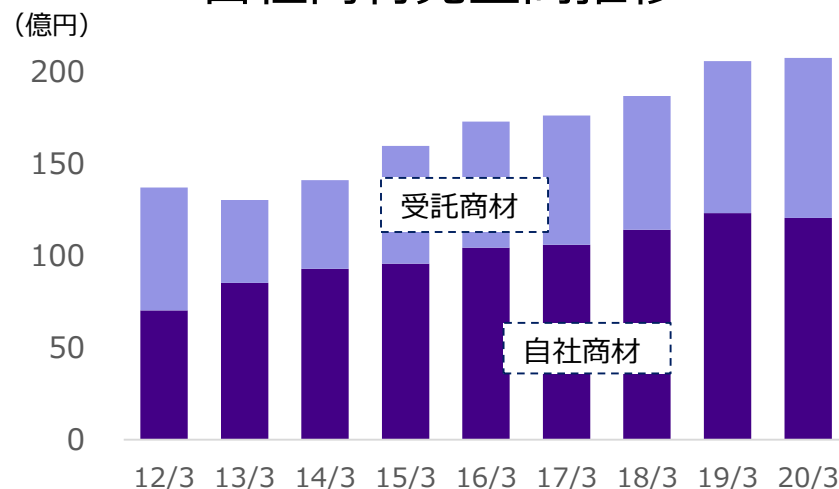
成長投資資金の確保と還元強化

注) 営業キャッシュフロー = 営業利益 + 減価償却費

当面の重点戦略

海外事業基盤の整備とポスト新型コロナ対応の事業再構築

自社商材売上高推移



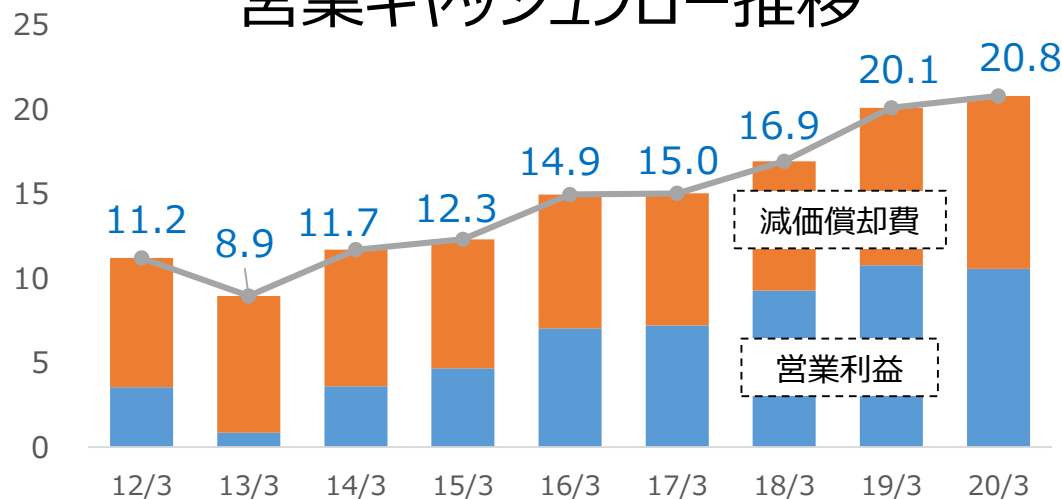
海外市場向け売上高推移

(単位：百万円)

	18/3期	19/3期	20/3期
海外売上高	264	1,497	1,403
海外売上比率	1.4%	7.3%	6.8%
海外子会社	225	1,465	1,342
輸出	39	32	61

(億円)

営業キャッシュフロー推移

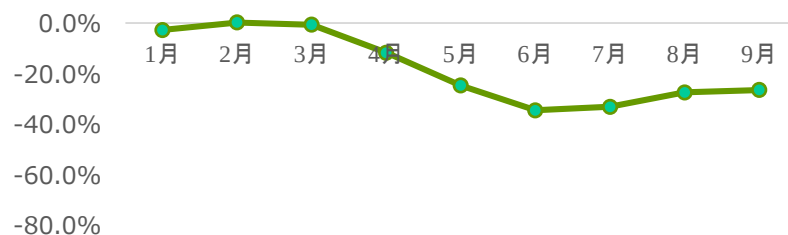


需要は回復基調にあったが、今後は影響の長期化懸念が台頭

乾燥製品類

オフィス向け粉末茶

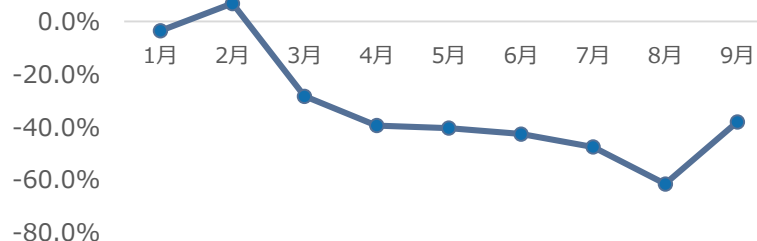
2020年の給茶機向け粉末茶月次売上動向
(前年同月比：3か月移動平均)



組立製品類

一部の健康食品受託加工

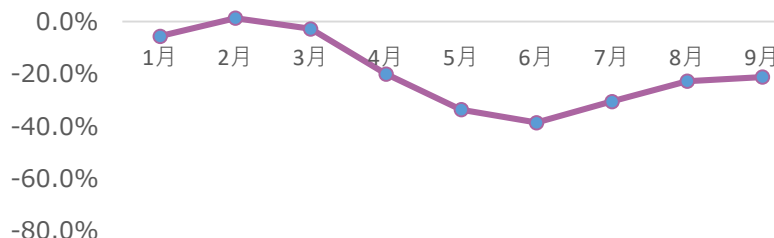
2020年スポーツ・サプリ月次売上動向
(前年同月比：3か月移動平均)



冷凍製品

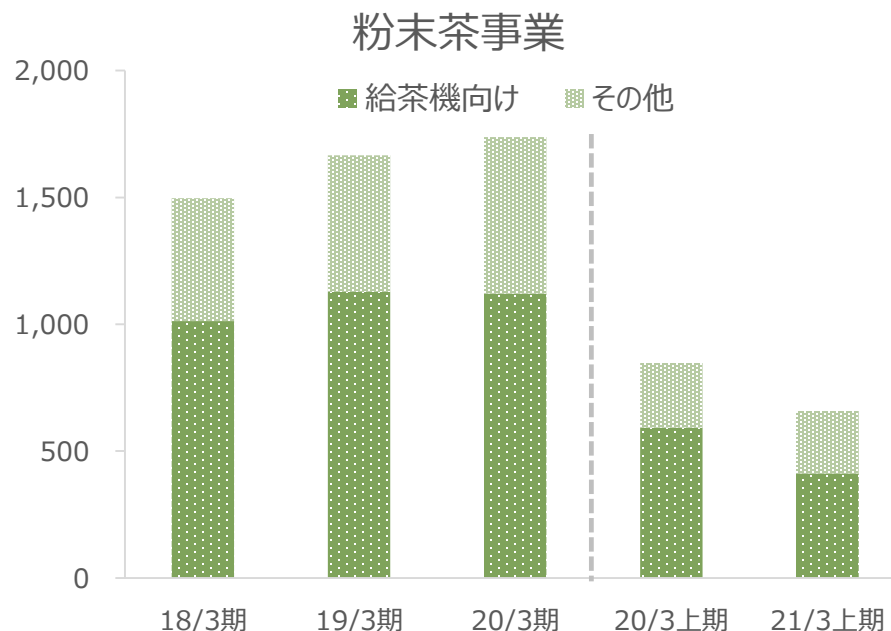
外食・コンビニ向け冷凍山芋

2020年冷凍山芋月次売上動向
(前年同月比：3か月移動平均)



感染症対策で
企業の働き方改革が浸透

新型コロナ終息後も
在宅ワーク定着の可能性大



オフィス向け商材戦略の見直し

【対象商材】

- ・粉末茶
- ・給茶機向け粉末製品

従来戦略

▶ 給茶機向け粉末茶拡販

見直し

▶ 非給茶機向け粉末茶拡販

加速

▶ 給茶機向け非粉末茶拡販

見直し



中国市場

龍和食品
福州仙波

東南アジア市場

SEMBA-NFC
STVC(工場建設中)

日本

東北センバ
仙波糖化

【海外事業収益】

(単位：百万円)

	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期
中国事業				
売上高	46	195	2,496	2,692
営業利益	▲20	77	260	239
ベトナム事業				
売上高	1	30	41	78
営業利益	▲0	▲1	3	0

(注) 売上高、営業利益とも海外子会社単純合算ベース

①海外子会社の管理体制強化

経営体制

- ◆ 中国事業管掌役員が
龍和食品の董事長に就任
- ◆ ベトナム事業管掌役員が
STVC社長就任

管理体制

- ◆ 海外収益の邦貨換算時
の為替レート基準変更

②中国市場対応

中国子会社の 収益基盤拡充

2019/11
新工場竣工

③東南アジア市場対応

ベトナムで拠点整備

2016/10
SEMBA-NFC設立(販社)
2019/3
製造子会社設立

2020/3
新工場建設開始

今期の重点施策

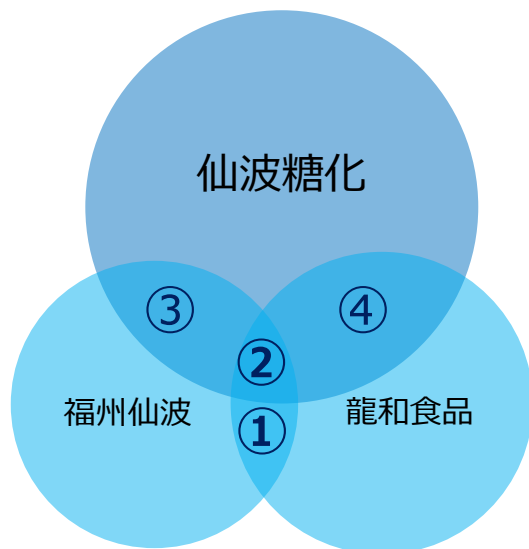
- ①中国子会社の収益管理体制強化とグループ・シナジーの追求
- ②ベトナム工場の計画通りの建設

中国子会社の収益管理体制強化とグループ・シナジー追及

- ✓ 新会計基準導入 → 経理担当の研修中
日本の収益認識基準変更に合わせて新会計基準を導入予定
- ✓ 収益認識の早期化
- ✓ グループシナジーの追求

シナジー創出に向けて

4つのシナジーの追及



【具現化例】

日本向け冷凍デザート

- ◆ 原料生産：福州仙波
- ◆ 製造：龍和食品
- ◆ 販売協力：仙波糖化

当社開発戦略室主導による
中国市場向け自社商材の開発

9月より一部商材のサンプル評価開始

新型コロナの影響でサンプル輸出できずやや遅れ

今期の重点施策の進捗状況② 新工場建設は、ほぼ計画通り

ベトナム工場建設

一部の設備搬入にやや遅れがあるが想定内

東南アジア市場へ日本品質基準の製品を届ける

ベトナム工場の建設状況

起工式



2020/3/4



2020/3



2020/7



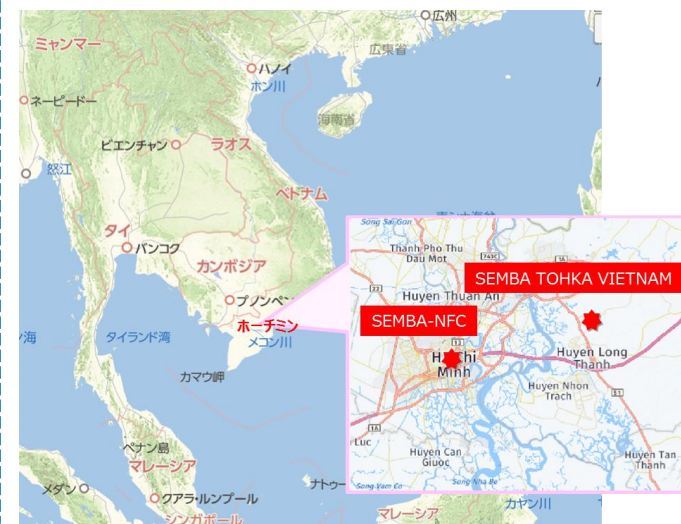
2020/11

工場立地・・・ホーチミン市より約40km

稼働開始・・・2021年度中

製造予定品目

・食品原料、食品添加物、食品



Ⅲ.2021/3期業績予想

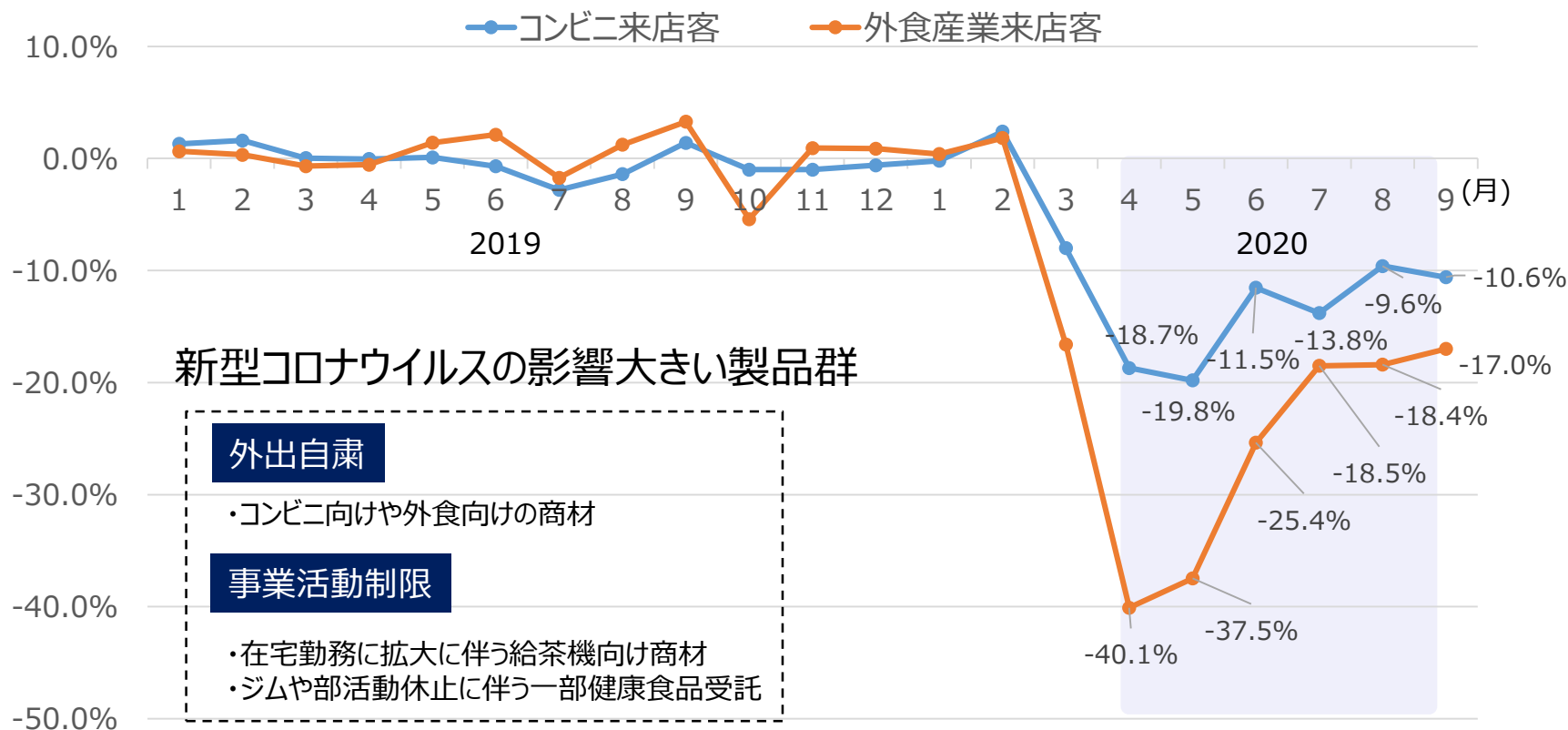
【生産面】 下期は、従来想定据え置き

	1Q	2Q	3Q前提	4Q前提
日本	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)
単体	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし
子会社	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし
海外	(1-3月)	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)
中国	▲63%	▲50%	▲25%	ゼロ
ベトナム	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし

【需要面】 下期の国内需要回復は、従来想定より鈍い

	1Q	2Q	3Q前提	4Q前提
日本	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)
需要減	粉末茶、 健康食品、 冷凍商材	一部商材底打ち	回復基調 ↓ 回復鈍い	正常化 ↓ やや影響残る
需要増	巣ごもり向け商材 (即席めん向け商材 粉末ソースなど)	引合い継続	巣ごもり需要反落 ↓ 巣ごもり需要継続	正常化 ↓ 巣ごもり需要反落
海外	(1-3月)	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)
中国	内需減少	底這い	回復基調	正常化
東南アジア	ほぼ影響なし	一部商材減少	回復基調 ↓ ほぼ影響無し	正常化

コンビニ及び外食産業来店客数推移（全店ベース） （前年同月比伸び率）



（出所）日本フランチャイズチェーン協会、日本フードサービス協会

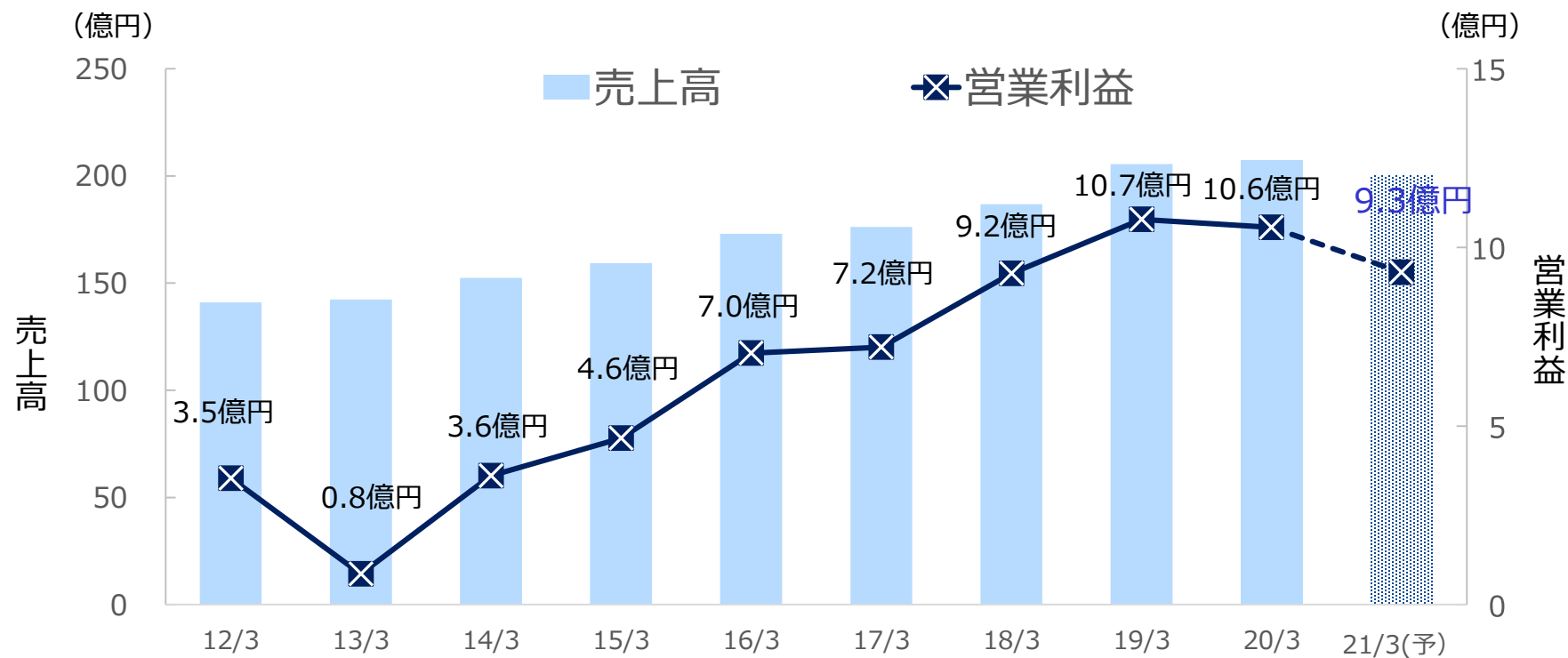
- ✓売上高は、外出自粛や事業活動制限の影響残り、5.8%減収
- ✓営業利益は、販管費削減を強化するも、減収要因をカバーできず、4.3%減益
- ✓営業利益は計画クリアだが、特損計上などで四半期純利益は計画未達

(単位：百万円、円)

	2020/3期上期		2021/3期上期			
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	従前予想	予想比
売上高	10,163	△3.2%	9,571	△5.8%	9,700	△129
営業利益	484	△22.1%	463	△4.3%	370	93
経常利益	474	△19.3%	387	△18.4%	340	47
親会社株主に帰属する 四半期純利益	301	△26.0%	154	△48.6%	230	△76
1株純利益	26.49	-	13.61	-	20.20	△6.59
設備投資額	1,283	+725	983	△300		
減価償却費	461	+7	400	△61		
研究開発費	181	+33	153	△27		

売上予想は減額するが営業利益予想は従来予想据え置き

	修正予想	前年度比	従来予想
売上高	200.0億円	△3.6%	204.0億円
営業利益	9.3億円	△12.0%	9.3億円

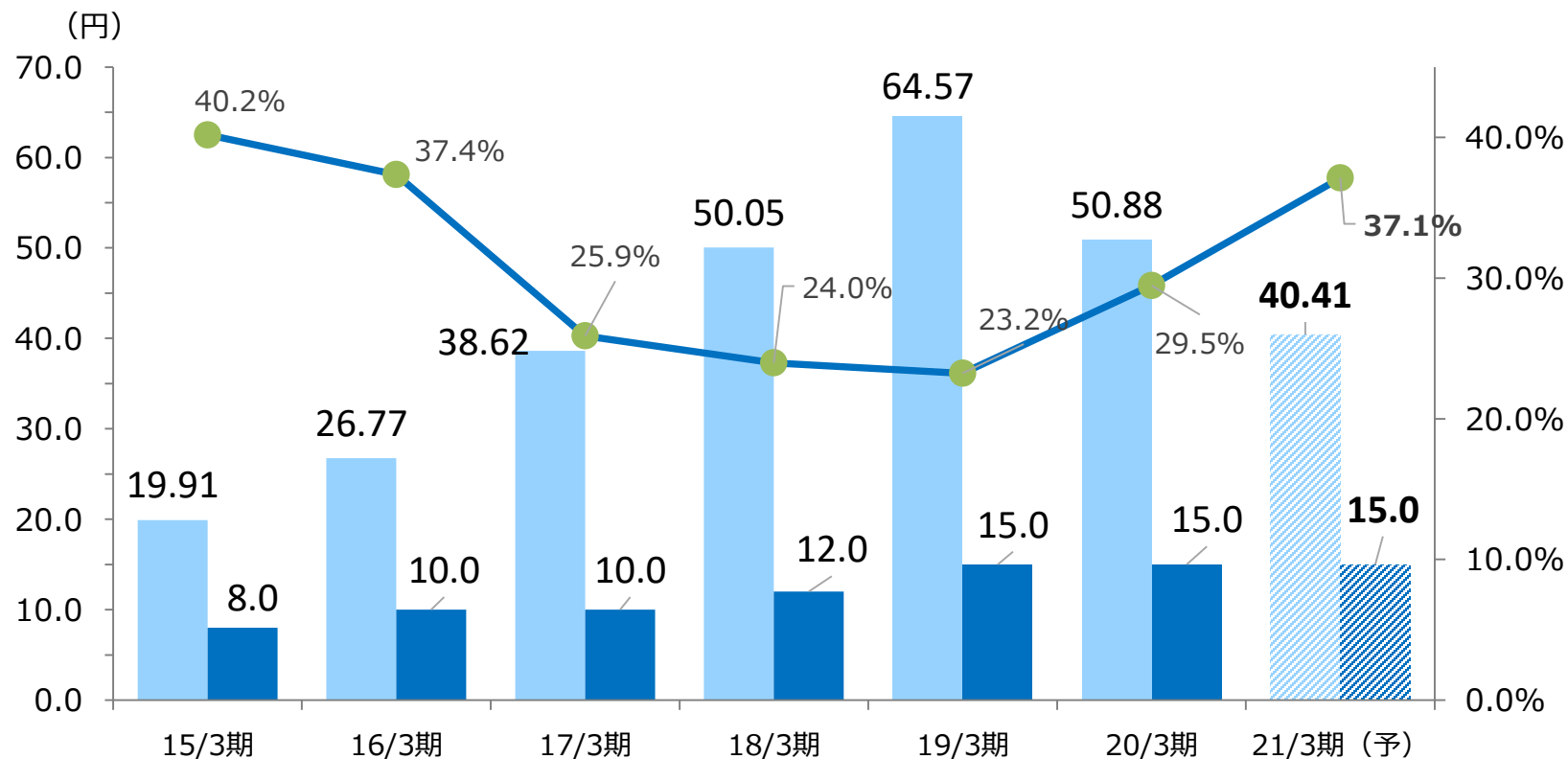


(注) 連結決算開始は2009/3期

IV. 株主還元

安定配当を維持する

1株利益 配当金 配当性向



対象となる株主様

9月30日現在、5単元（500株）以上保有の株主様が対象。

2020年度の優待品

3年未満保有の株主様

自社製品 **3,000円相当**



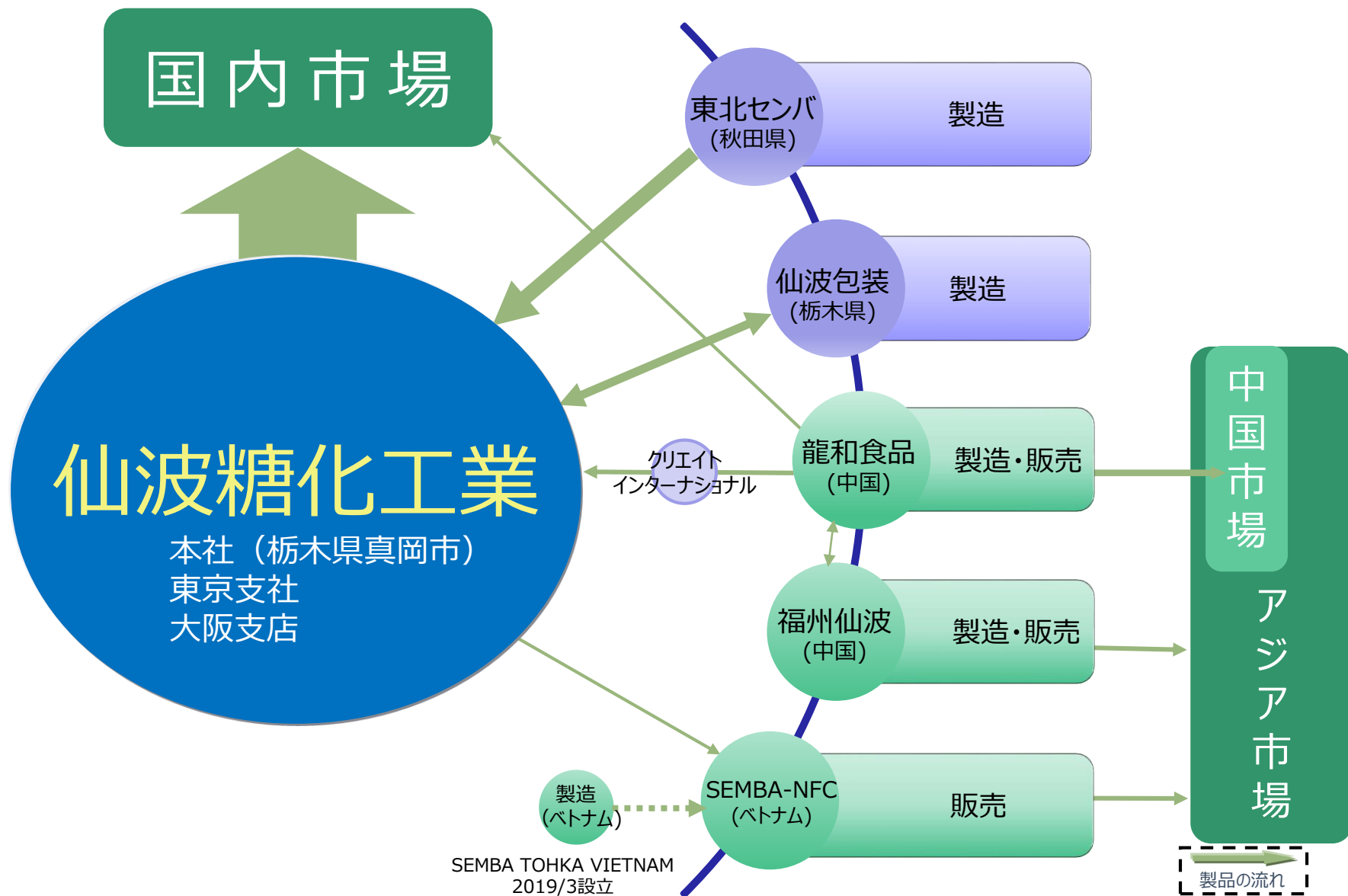
3年以上保有の株主様

自社製品 **5,000円相当**



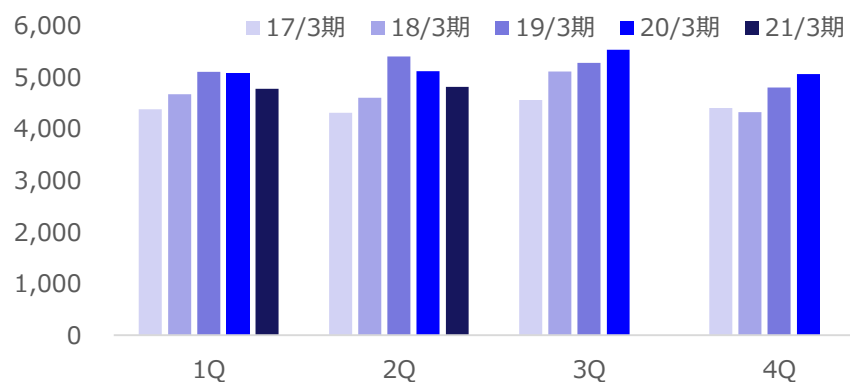
參考資料

- 1946年 10月 栃木県真岡市に創業、カaramelの製造販売開始。
- 1963年 5月 スプレー・ドライヤーを新設し、粉末食品の生産開始。
- 1967年 7月 茨城県水戸市に工場を新設。
- 1971年 11月 真岡工業団地に真岡第二工場を新設。
- 1972年 5月 太陽食品包装株式会社設立。(現：仙波包装株式会社)
- 1974年 3月 真岡第二工場の第2期増設完了。フリーズ・ドライ製品の生産開始。
- 1977年 9月 本社工場に造粒設備を新設。
- 1979年 9月 スプレー・ドライヤー及び造粒設備増強のため真岡第三工場を新設。
- 1988年 9月 水戸工場を真岡第三工場へ移転。
- 1990年 7月 株式会社東北センバを設立し、冷凍山芋の生産開始。
- 1991年 1月 福建龍和食品実業有限公司を共同で設立。
- 1994年 11月 資本金13億4,050万円に増資。日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 2001年 8月 資本金15億50万円に増資。
- 2003年 11月 福州仙波食品有限公司（現：福州仙波糖化食品有限公司）を設立。
- 2006年 4月 真岡第二工場に昆布エキス製造工場を新設。
- 2006年 9月 真岡第二工場に粉末茶製造工場を新設。
- 2007年 4月 冷凍和菓子の生産開始。
- 2007年 8月 真岡第二工場に鰹節エキス調味料設備を新設。
- 2011年 5月 真岡第三工場スプレー・ドライヤーS&B。
- 2012年 11月 株式会社東北センバ大館新工場稼働。
- 2016年 10月 SEMBA-NFC設立。
- 2017年 4月 真岡第二工場焙焼製品新工場稼働。
- 2018年 1月 福建龍和食品実業有限公司を子会社化。
- 2019年 3月 SEMBA TOHKA VIETNAM設立。

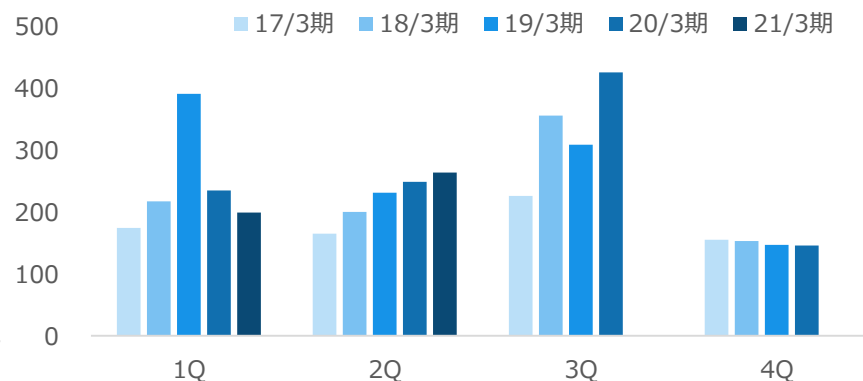


四半期業績推移

四半期売上高推移



四半期営業利益推移



(単位: 百万円)

	19/3期				20/3期				21/3期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	5,099	5,395	5,268	4,793	5,056	5,107	5,526	5,053	4,767	4,804
カaramel製品	972	940	1,052	867	947	940	1,031	893	903	923
乾燥製品類	1,626	1,635	1,771	1,647	1,531	1,420	1,719	1,546	1,489	1,352
組立製品類	1,206	1,400	1,418	1,310	1,310	1,404	1,456	1,194	1,113	1,292
冷凍製品	985	1,080	703	687	950	1,014	951	1,113	933	920
その他	308	340	324	282	316	329	367	307	326	317
営業利益	391	231	309	147	235	249	426	146	199	264

- ✓原価率は、自社商材の落ち込み大きく、0.1ポイント悪化
- ✓販管費削減に努め、営業利益率は、4.8%を維持
- ✓製品トラブルを主に特別損失を計上

(単位：百万円)

	2020/3上期		2021/3上期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸び率
売上高	10,163	100.0%	9,571	100.0%	△ 591	△5.8%
売上原価	7,923	78.0%	7,475	78.1%	△ 448	△5.7%
売上総利益	2,239	22.0%	2,095	21.9%	△ 143	△6.4%
販管費	1,754	17.3%	1,631	17.0%	△123	△7.0%
営業利益	484	4.8%	463	4.8%	△ 20	△4.3%
営業外損益	△ 10	△0.1%	△76	△0.8%	△66	—
経常利益	474	4.7%	387	4.0%	△ 87	△18.4%
特別損益	△6	△0.1%	△149	△1.6%	△143	—
税引前利益	468	4.6%	237	2.5%	△ 231	△49.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	301	3.0%	154	1.6%	△ 146	△48.6%

【営業外損益】

	20/3上	21/3上
営業外収益	38	→ 37
営業外費用	48	→ 114
(金融収支)	3	→ △13
(為替差損)	15	→ 73

【特別損益】

特別利益	-	→ 10
特別損失	6	→ 159

2021/3期上期

要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2020/3末	2020/9末	増減額
流動資産	11,762	11,205	△556
現金及び預金	3,757	3,396	△360
受取手形及び売掛金	4,080	4,031	△49
棚卸資産	3,634	3,390	△243
固定資産	9,667	10,277	609
有形固定資産	6,612	7,122	510
無形固定資産	574	646	71
投資その他資産	2,480	2,507	27
資産合計	21,430	21,482	52

棚卸資産 **△243**
 ・商品・製品 △223
 ・仕掛品 +135
 ・原材料・貯蔵品 △155

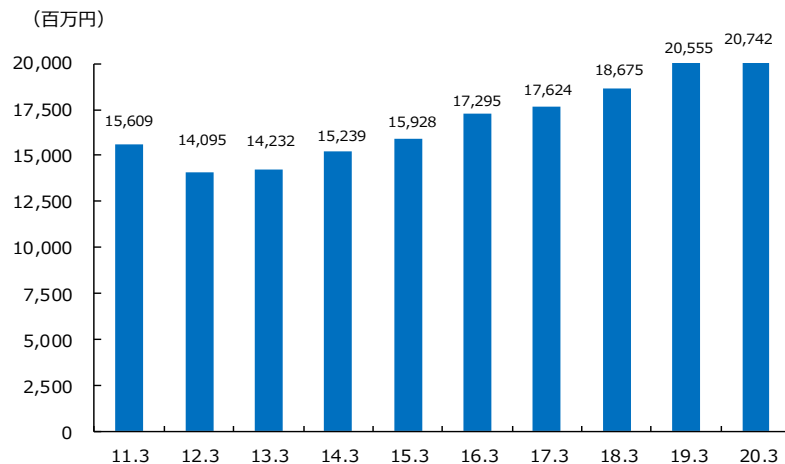
流動負債	8,061	7,741	△319
支払手形及び買掛金	2,429	2,182	△246
短期借入金	3,855	3,807	△47
固定負債	2,906	3,201	295
長期借入金	1,316	1,620	303
負債合計	10,967	10,943	△24
純資産合計	10,462	10,539	76

有利子負債 **+256**
 ・短期借入金 △ 47
 ・長期借入金 +303

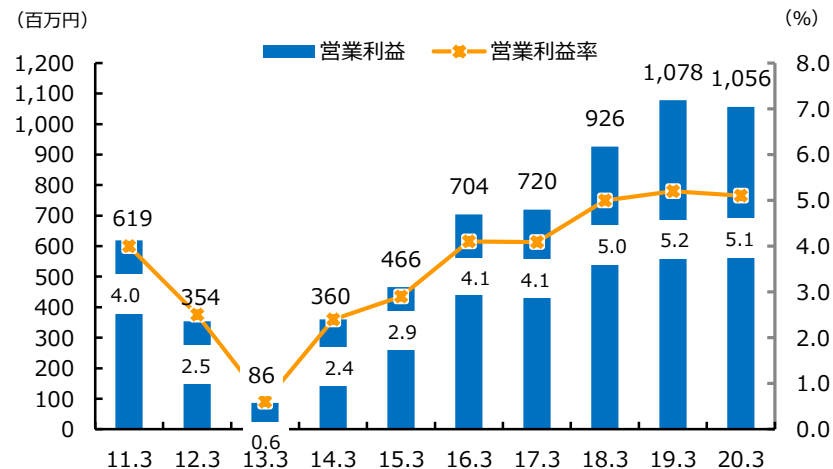
⇒自己資本比率 **45.2%**
 (+0.5ポイント)

主要財務データ①

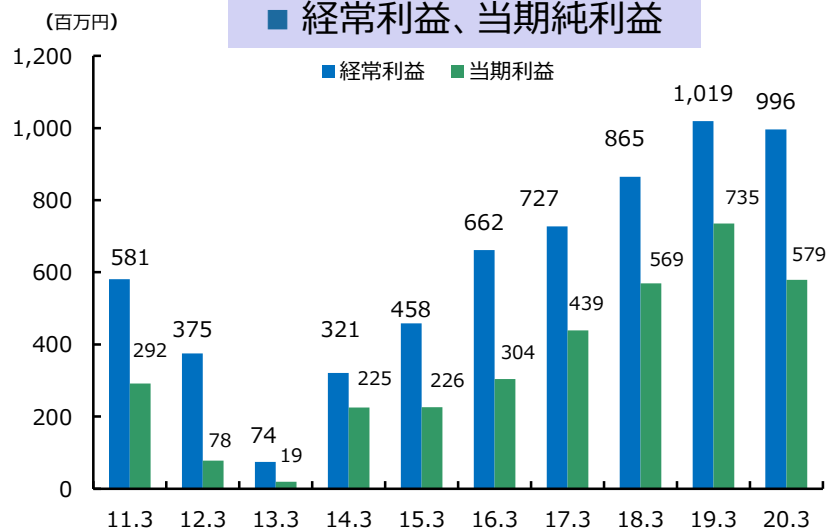
売上高



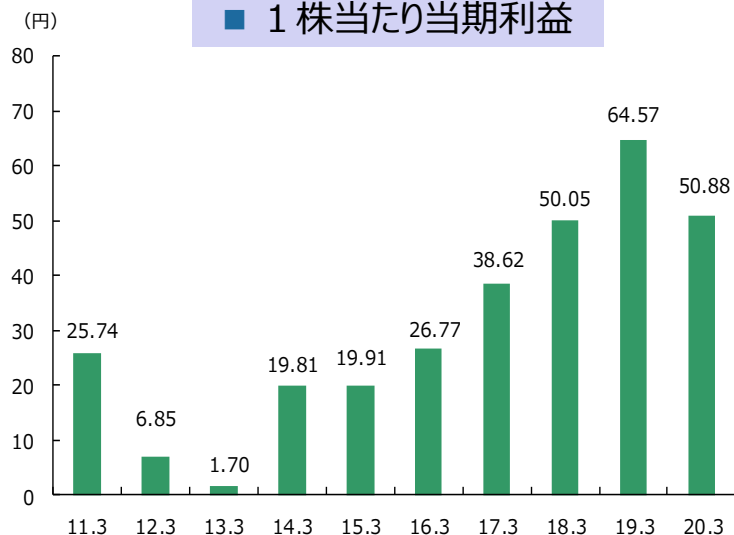
営業利益



経常利益、当期純利益

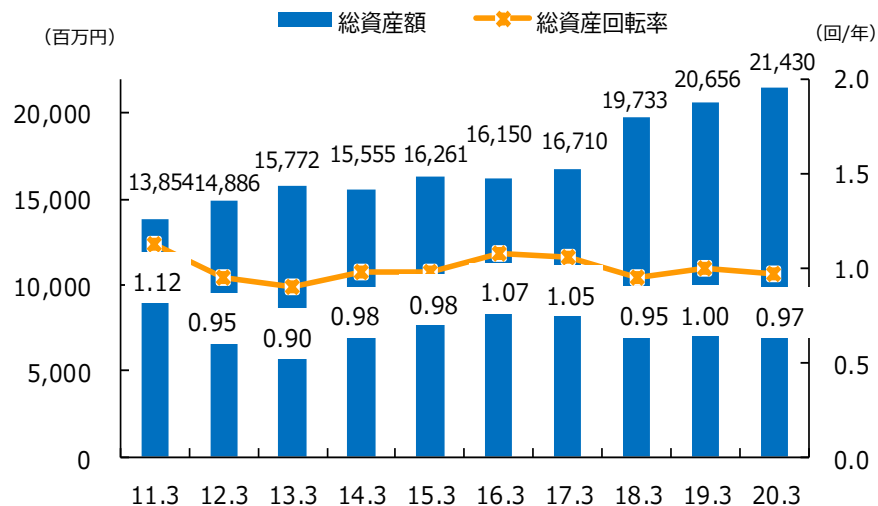


1株当たり当期利益

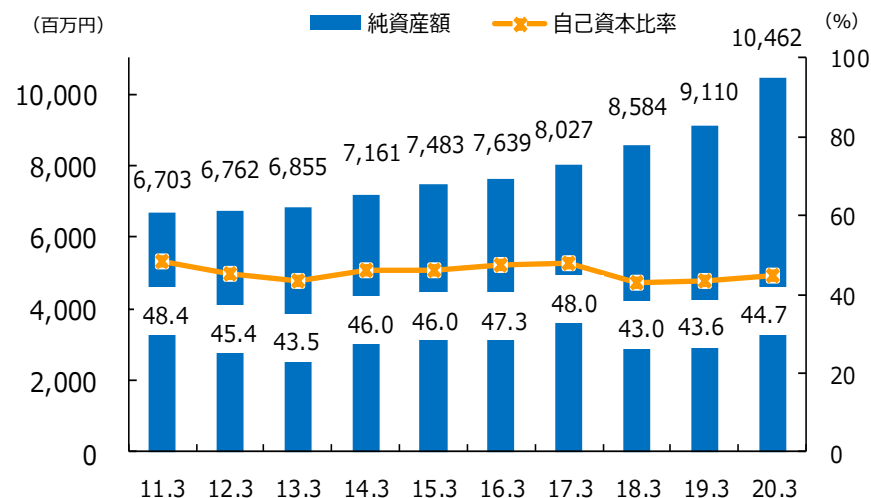


主要財務データ②

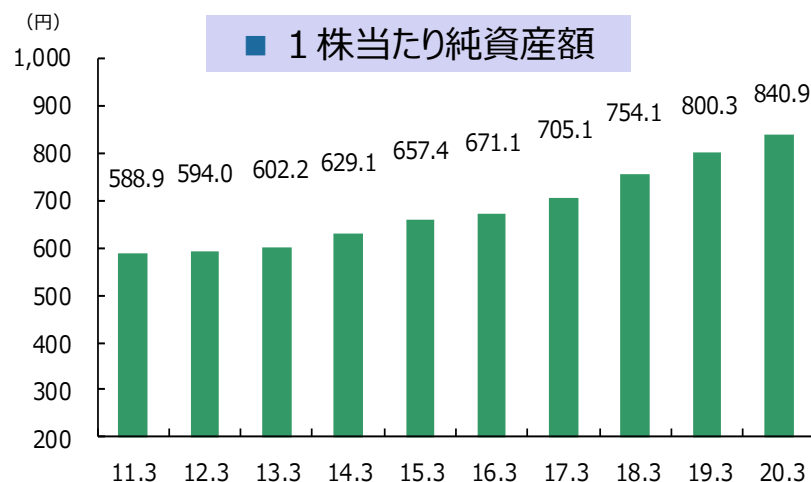
■ 総資産、総資産回転率



■ 純資産額、自己資本比率



■ 1株当たり純資産額



〈お問い合わせ先〉
仙波糖化工業株式会社
総務部 IR担当

TEL: 0285-82-2171

FAX: 0285-84-3283

E-Mail : ir@sembatohka.co.jp

当社IRサイトもご覧ください。 <https://www.sembatohka.co.jp/>

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。